

平成23年度香川大学卒業式 学長告辞

今年も香川大学から社会に巣立っていく若者がここに集いました。

一抹の寂しさを感じながらも、期待を込めて、はなむけの言葉を贈りたいと思います。

皆様ご存知のように、私は昨年10月に学長に就任しました。以後、諸君とともに過ごした期間は半年でありました。短い期間ではありましたが、私は出来るだけ諸君と接する機会を設けるために、過日、4年生を対象に“社会に飛躍する若者に向けて”と題して私の経験をもとに、人生の折々に感じ・考えた事をお話しました。

私は約40年間、脳や脊髄を手術する脳神経外科医として教育・研究・臨床そして後輩の育成に携わってきましたが、専門は異なっても私から諸君に対する熱い思いが伝わっていると信じています。先般お話した内容については、大学のホームページで見ることが出来ますので、興味のある方はアクセスして下さい。

さて、諸君がこれから身を置く社会は、グローバル化、IT化、価値観の変容など目まぐるしく変化する中であって、政治、経済、社会システムなどが混沌としており、今形あるものでも将来にわたって確実さを保証されるものは何一つありません。このような時代に諸君が生き抜くために、私は次の3つが支えになると思うのです。

一つ目は、香川大学で学んだ自分への自信です。自信を持って胸を張って下さい。諸君は4年あるいは6年前の諸君ではありません。大学生活を通して、各自が学内外で多くの事を経験し、自己形成がなされ、精神的な背骨が太くなっているのです。学生生活で培われた感動や心の芽

生えがやがて社会生活の中で大きく飛躍する瞬間が来るはずです。その時にはじめて見事な花を咲かせる、その様な生き様を期待しています。

二つ目は、人生を歩いていくために目標を持ち、実現に向けてひたすら努力する事です。社会に出ると環境への適応に時々いらだちを感じたり、自分の不甲斐なさに挫折感を味わう事があるでしょう。しかしこれはどの先輩も通ってきた道なのです。

最初からうまくいく人は誰一人いません。自分で目標を立てて、足元を見つめ一步一步着実に歩いて下さい。そうすると必ず目標に近づけ到達する事が出来ます。

私は遍路旅が好きです。あるお寺では、見上げると多くの石段を前に、とてもあの高い山門には到達できないと感じる事があります。しかし、遍路笠を目深にかぶり、足元を見つめ、一段ずつ上がって行けば、意外と容易に山門にたどりついた事を何度も経験しました。

ただし、歩むことをやめたら、次の目標には進めません。

三つ目は、困難な局面に合っても積極果敢に挑戦する気概です。色々な事に挑戦して失敗して下さい。私は脳神経外科医として多くの手術に立ち会いましたが、手術が成功して患者さんが無事社会復帰された例は記憶に残りにくいのです。むしろ手術や術後管理に汗水を流した例は、未だに手術の模様まで鮮明に覚えています。

それが私の血となり肉となり、次の手術を成功に導き、結果的にはそれが後輩の指導に役立っているのです。諸君はどの職業につかれても失敗を恐れてはいけません。

経営者の本田宗一郎氏も“チャレンジして失敗を恐れるよりも、何もしない事を恐れる”と言っています。

私は諸君の新しい門出に心から祝福を贈ります。

香川大学は諸君と臍の緒でつながっています。君たちの心の故郷はこの地にあります。この地で学び育った事を誇りにして、胸を張って社会に飛躍して下さい。

卒業おめでとう

平成24年3月24日

香川大学長 長尾省吾